

### 1.3.3 水問題解決へ向けての世界的な動向

日本政府が招致し、2003年3月に京都・大阪・滋賀で開催された第3回世界水フォーラムでは、182の国や地域から24,000人（うち海外から8,000人）以上の人々が参加して、351もの分科会や閣僚級会議などが開かれ、ありとあらゆる水の問題について、情報交換したり、解決策を議論したりした。その結果、水は、

- ・ 持続可能な開発、貧困及び飢餓の撲滅の原動力
- ・ 人の健康や福祉にとって不可欠のもの

であって、水問題の解決のために、

- ・ 草の根レベルからの取り組み
- ・ 様々な行動を起こし、その進捗状況を確認しつづけること
- ・ 公益や貧困層の利益の保護に留意すること
- ・ 官民のあらゆる資金を動員する努力を強化すること

が必要であると確認された。これは、閣僚宣言より要点を抜粋したものであり、各国の政府がこうした水問題への共通認識を改めて再認識し、その解決に向けての努力を惜しまないことを世界に約束したのである。

世界の水問題は、洪水・干ばつ・飲料水・農業用水・水質汚濁・衛生など多様である。そしてその内容や深刻さは地域によって異なる。世界のあらゆる水問題は、次の5つの範疇に分類できるとされている（第3回世界水フォーラム閣僚宣言による）。

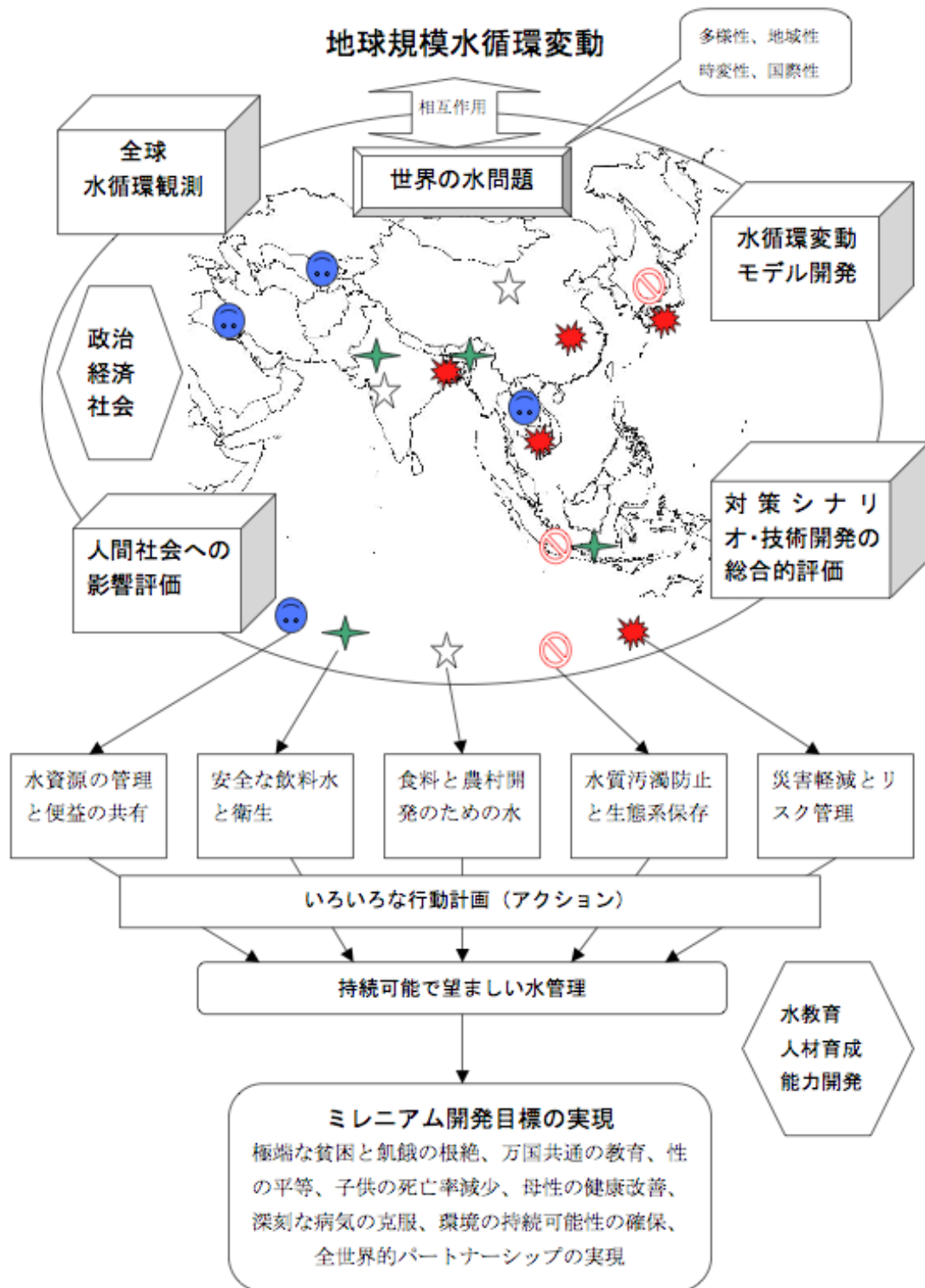
- ◎ 水資源管理と便益の共有
- ◎ 安全な飲料水と衛生
- ◎ 食糧と農村開発のための水
- ◎ 水質汚濁と生態系の保護
- ◎ 災害軽減と危機管理

この分類に従って、いろいろな行動計画（アクション）が、第3回世界水フォーラムやその他の国際的な枠組みにおいて（あるいは、草の根レベルの諸活動から）提案されている。それらの行動計画はいずれも、持続可能で望ましい水管理を手段として含んでいる。そして究極的には、2000年9月に国連によって提唱された「ミレニアム開発目標」の8項目

- ・ 極端な貧困と飢餓の根絶
- ・ 万国共通の教育
- ・ 性の平等
- ・ 子供の死亡率減少
- ・ 母性の健康改善
- ・ 深刻な病気の克服
- ・ 環境の持続可能性の確保
- ・ 全世界的パートナーシップの実現

を達成することにあると言える。その過程においては、水に関する教育、人材育成、能力開発についてのたゆまぬ努力が色々なレベルで必要である。

【図1】には、上述した世界的な水問題の発生とその捉え方を図式化したものの上  
 に後述する「地球規模水循環変動研究イニシアティブ」の4つのプログラムを重ねて  
 示した。我々が推進しようとしている地球規模水循環変動研究は、世界的な水循環観  
 測の展開とそれに基づく水循環モデルの向上と開発を通して水循環科学の拡大・深化



【図1】地球規模水循環変動研究と世界の水問題

を図るとともに、水循環変動が人間社会に及ぼす影響と人間活動が水循環に及ぼす影響の双方を適正に評価し、水問題解決へ向けて適切な技術開発と対策シナリオを示すことを意図している。

そして、我々の研究も、【図 1】のような広がりの中で、単にアカデミックな成果を期待されているだけではなく、最終的には、水循環の理解に根ざした水問題の改善や解決を通して、ミレニアム開発目標に掲げられている世界の平和と人類の福祉の向上に資することが強く期待されている。水循環分野の研究者は、このことを十分に認識して研究に当たらなければならない。